

愛知県 看護協会 だより

2016 Winter vol.125

特集

第46回日本看護学会
-在宅看護-学術集会 開催

INDEX

- 01 2016年 新年のごあいさつ
- 02 DiNQLの輪
- 03-06 第46回日本看護学会
-在宅看護-学術集会 開催
- 07-08 看護職のWL B推進ワークショップ事業
楽しく拡がる ワーク・ライフ・バランス
- 09-10 ナースセンターニュース2016 WINTER
- 11 シリーズ地区支部活動
【第5回】尾張地区支部・知多地区支部
- 12 看護研究における
倫理審査に関するニーズ調査結果
- 13 医療の安全確保に向けて
- 14 選挙公報／マンスリーニュース
- 15 理事会報告／お知らせ



半田赤レンガ建物(半田市榎下町)

公益社団法人 愛知県看護協会

<http://www.aichi-kangokyokai.or.jp>

健康であること、
幸福であること、
そのための看護。

2016年 新年のごあいさつ



公益社団法人 愛知県看護協会 会長 鈴木 正子

新年あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年をお迎えのことと思います。

さて、今、わが国は超高齢社会の到来を見据え、浮き彫りになる課題に対応して社会保障政策は変革に次ぐ変革を続けています。

昨年秋に開催しました「日本看護学会－在宅看護－学術集会」は、皆様のご支援・ご協力のおかげで成功裡に終えることができました。「在宅看護」は、高齢社会を支える施策として構築の急がれる「地域包括ケアシステム」の中で大きな位置を占めます。学会では、多様な期待に応えられる確かな技術を持つことの重要性を通じて「在宅看護の未来のかたち」のビジョンを描き出すために討論を重ねました。日本看護協会も、誕生から死まで人々の健康状態に応じて看護職が担う支援という視点から、「2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を発表し、「私たち看護職の果たすべき役割は何か」を示しています。

めまぐるしく変わりゆく社会情勢の中で、どこにいても方向性を見失うことなく自信と誇りを持って活躍していくために、私たちが自らの中に確固たる「看護の将来ビジョン」を持つことがとても大切になると思います。

また、私たちには、これから看護をともに支えてくださる人たちが必要です。昨年、愛知県ナースセンターは、スタッフを増員し、名駅支所のオープン、相談時間の延長などキャパシティを拡大して再スタートし、本年は皆様により親しまれるように、さらなる発展を期します。ナースセンターは、会員・非会員問わずどなたでもご利用いただけます。これから看護職を目指したいと思っている方などに、皆様からもぜひご案内いただきますようお願いします。

看護協会には、社会・医療・看護が大きく変化するいま、これら潮流にスピード感をもって的確に対応していくことが求められています。そのために、会員の皆様方の声を聴き、情報の共有を図りながら、ともに考え、常に前へ進む協会でありたいと思っています。

本年も、皆様の一層のご支援、ご協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。



事業キャラクタ ディンキー

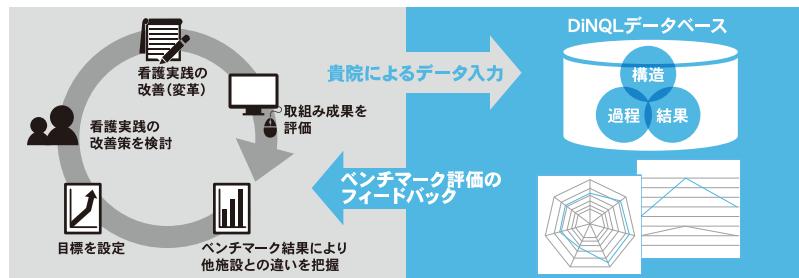
看護の質を高めるために、データ活用を！

DiNQL(ディンクル: Database for Improvement of Nursing Quality and Laborの略)「労働と看護の質向上のためのデータベース」とは、日本看護協会が取り組んでいる事業で、今年で4年目を迎えました。

2015年には、全国で521施設が参加し、うち愛知県では40施設が参加しています。

事業目的

- 看護実践をデータ化することで、看護管理者のマネジメントを支援し、看護実践の強化を図る。
- データを有効活用し、看護政策の実現を目指す。



愛知県看護協会業務委員会では、試行事業に参加した施設の看護管理者を対象に、今年度2回の交流会を実施しました。

第1回交流会（平成27年6月23日）

データの活用の実際、情報交換で満足度の高い交流会



●DiNQL活用に関する講義

日本看護協会看護開発部看護情報課長 岩澤 由子 氏

●グループワーク 各部署のデータ分析や改善への活用

半日の講義とディスカッションで、データの活用の実際を学び、質改善に向けての考え方を研修。

参加者はデータの入力に携わった看護管理者であるため、「具体的な活用が見いだせた」「スタッフと共に目標設定し、実践していくこうと思った」「結果だけでなく構造と過程を見る必要のあることがわかった」などの声が聞かれました。

また、半年後に開催の第2回に向け課題「DiNQLデータの分析結果を用いた改善目標と改善策」がだされました。

第2回交流会（平成27年12月15日）

データを深く分析、看護の質向上に向け結果共有



- 第1回と同じグループでデータを持ち寄り、分析、結果を共有
- テーマを選び、データ活用の事例発表

第1回で出された課題について、グループ内で共有。その後、看護実践への活用を目的に、テーマ「褥瘡」、「転落・転倒」、「感染」「その他(時間外勤務削減)」より1事例を選び発表。

参加者からは、「多方面からデータを分析する方法がより明確になった」「看護の質の可視化によりスタッフの士気もあがるよう活用した」等多くの感想が寄せられました。

「データ収集と入力に多くのエネルギーを費やし、結果を何となく見るだけではなく、可視化された結果を用いてPDCAサイクルを回すことで看護実践の成果がみえ、看護が楽しくなる」と帰りに話される参加者の一言が印象的でした。

平成28年度も業務委員会では研修会の実施など、DiNQLを活用し看護の質向上に向けた研修の企画を行ってまいります。

公益社団法人日本看護協会 参加病院の募集期間 平成28年1月7日(木)～2月29日(月)

DiNQLに関する情報や、詳しい申込方法については、日本看護協会のホームページをご参照ください。

特集 第46回 日本看護学会 -在宅看護-学術集会



「在宅看護」学術集会を終えて

第46回(平成27年度)日本看護学会-在宅看護-学術集会 準備委員長 百瀬 由美子



去る、平成27年10月2日から3日の2日間、第46回日本看護学会-在宅看護-学術集会が名古屋の地で開催され、全国から在宅看護に関わる多くの看護職の方々の参加により、盛会のうちに終えることができましたこと、関係の皆様には心より感謝申し上げます。近年の在宅医療の推進の動向から、在宅看護の対象は幅広く、ニーズは複雑かつ多様であり、特に今後さらに増加する後期高齢者や百寿者が抱える健康問題や生活課題の解決に向けて、社会から期待される役割も大きいものとの認識から、「在宅看護の未来のかたち～多様な期待に応える技の向上をめざして～」を学術集会のテーマとしました。学術集会開催の約1年半前に準備委員会が発足し、委員会メンバーで頭を突合せ、活発に情報交換し、知恵を絞り、このテーマを決定しました。現在の、そして未来を担う在宅看護には、訪問看護だけなく、連携する病院や施設等に所属するあらゆる看護職が関心を向け、取り組むべき課題をもっているはず。活動の場に關係なく在宅看護の現状の課題を踏まえ、未来に向けてどうしていったらいいだろうかについて意見交換ができ、発信していく機会にできたらとの委員全員の熱意を結集してプログラムの作成にあたりました。その思いが会員の皆様にも伝わったのではないかと思われるほどの多くの参加を得て、改めて在宅看護への関心の高さを実感しました。

超高齢社会における医療のかたちを理解し、今後ますます増えるであろう認知症高齢者に対する効果的な対応方法や退院支援を考え、さらに安心して、安全に住み慣れた地域で暮らし続けることができるための地域包括ケアシステム構築の推進と実践の中核的役割を担う在宅看護の知と技について活発に議論することができました。県民公開講座では、医療やサービスを利用する住民目線から「自分らしい最期」を支える自宅での看取りの体験を県民の方々と共有することができたのではないかと思います。

ご参加いただき、学術集会を盛り上げてくださいました会員の皆様には、感謝申し上げますとともに、社会の期待に応えるべく、この学術集会で得た知見を在宅看護の実践に生かし、また新たに発見した課題の解決に向けてさらに研究を発展させていただけますよう祈念いたします。



在宅看護の未来のかたち

～多様な期待に応える技の向上を目指して～

開催

日 時 平成27年10月2日(金)・3日(土)

場 所 名古屋国際会議場

参 加 者 のべ3378名

発表演題 164題

基調講演

超高齢社会の医療のかたち

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 名誉総長
大島 伸一

20世紀の医療、これまでの医療、治す医療の限界について、今後超高齢社会をむかえるにあたっての問題、そして高齢者の医療は、若い人とは大きく異なるうえに、医療の提供のあり方も変えなければならないと述べられました。

対象は70歳以上、目標は生活機能の維持、評価はQOL・ADL・QODであり、医師がどうかわっていくかが求められる社会となります。これから医療は①治す医療から治し支える医療へ②病院医療から地域の医療・介護の連携へ③生命予後からQOL・QODへ④臓器機能回復から全身機能との調和へ⑤正常の定義を臓器機能から自立機能へ⑥健康の再定義へ変える必要があります。また、医療の中に生活、生活の中に医療といった在宅医療が核となり、連携が鍵となり、地域包括ケアが医療の主流と変わっていきます。そこで中心となるのは看護であり、看護の果たす役割は重要となってくるといった貴重な講演でした。

(広報委員 加藤こずえ)



県民公開講座

「自分らしい最期」を支える自宅での看取り

ライフ・ターミナル・ネットワーク 代表／一般社団法人日本医療コーディネーター協会 顧問
金子 稚子

超高齢多死社会を目前に控えるなかで、自分らしい最期をどのように迎えるか、また、それをどう支えるかは大変重要な課題になっています。

講師の夫である金子哲雄氏は41歳の若さで亡くなられました。「病気を公表しないで仕事を続けたい、最期まで家で過ごしたい」という夫の望みを尊重し、夫を支え続け、自宅で看取った妻としての貴重な体験を詳細にお話しいただきました。

公開講座ということもあり一般の方も聴講され、自分らしい最期をどのように迎えるのか誰もが考える機会となりました。そして、私たち医療者も自分らしい死のあり方やそれを支える在宅終末期医療、在宅看護のあり方について考えさせられる講演でした。

(広報委員 加藤こずえ)



技の向上をめざして

教育講演II

高齢者ケアのユマニチュード -優しさを伝える認知症ケアメソッド-

高齢化に伴い、認知症あるいは認知機能が低下した患者の入院が増えています。

治療・看護ケアを行うにあたり、その意味が理解できないためにケアを受け入れることが困難で、抵抗して暴れたり治療を拒否することも少なくありません。

そのため、やむ得ず拘束したり鎮静剤を使用し、体を動かせなくなり全身の機能が低下して、治療しているのに全身状態が悪くなるという悪循環が生じます。

「ユマニチュード」はフランス発祥で36年の歴史を持つ、知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーションに基づいたケアの技法です。

この技法を導入したフランスの長期療養施設ではユマニチュードを導入することで、年間の医療費削減、施設から急性期病院への搬送が約6割減になったそうです。

「あなたは大切な存在です」という言語および非言語によるメッセージの伝わる講演でした。(広報委員 小林明美)



口演

がん看護I エンドオブライフ・ケアI

2つの発表会場ともに満席となり、会場から人が溢れていきました。

がん看護Iの口演発表では、在宅で終末期および死を迎える患者に対し多職種が連携しチーム医療での関わりと支援、自宅で死を迎える患者の家族への関わりや支援、その人らしさを支える看護などがありました。

エンドオブライフ・ケアの口演発表では、在宅療養介護高齢者の看取りに関する事、終末期の患者・家族の死の受容などの発表がありました。

終末期を自宅で過ごしたいという患者は増加しています。そのような患者や家族への支援に取り組んでいる実際を知ることができます。(広報委員 佐藤信枝)

示説



在宅看護の未来に向かって

教育講演I

地域包括ケアを再考する

現在わが国では急速に高齢化が進み、2025年には団塊の世代が75歳を迎える。人口の5人に1人が後期高齢者となる時代が想定されています。各地で2025年問題について議論がなされ、行政としても必要な支援体制の構築に向けて、地域包括ケア化を目指す政策が本格化しつつあります。



これまでの医療は、地域包括ケアとは真逆の「施設化・医療の独立化」への道を進み、医療をトップに考え、医療上の解決を経て大きく発展してきました。今後、地域包括ケア政策に関して考えなければならないのは、個人の生活モデル的にケアを実施するということです。そのためには現在の政策状況がどこへ向かうべきなのかをよく議論し、見定めなければなりません。

医療をトップにするのではなく、患者や現場に近い看護職の役割が重要であることを再確認した講演でした。(広報委員 中根典子)

交流集会I

訪問看護の専門性を考える

訪問看護認定看護師・在宅看護専門看護師・特定行為にかかる看護師、専門性の高いそれぞれの立場から活動内容などが述べられ、それをもとに、多様な役割が期待される訪問看護の専門性について意見交換がなされました。



安心できる在宅生活の実現のためには、地域全体の課題に目を向けながら、よりよいネットワークの構築に向けてリーダーシップをはかることが重要であるという意見や、訪問看護の専門性は究極のジェネラリストである、という意見も述べられました。参加者からは、特定行為の実践にあたり、医師の反応や費用効果などについて質問がありました。訪問看護のエピソードを交えた意見交換に、会場は笑いと涙に包まれていました。講師はもちろん、参加者からも、訪問看護に対する熱い思いを感じる交流集会となりました。(広報委員 武田知子)

シンポジウムI

2030年を見据えて在宅看護の担い手をどう確保・育成するか



斎藤訓子氏は、訪問看護師がベテランでなければならないというエビデンスはなく、未経験者の研修を充実させることが重要だと発言されました。長江弘子氏は、すべての看護師が在宅看護の視座を持つことが望まれ、教育においては、看護学生の役割移行を支え、内省的観察によって気づきを意識化させ、次へ活かす経験学習が重要であると発言されました。権平くみ子氏は、2年かけて段階的に教育を行うことで新卒者でも十分に訪問看護師になれる事を示し、新人訪問看護師の立場から田中智美氏は、看護学生の進路決定は教員の助言と研修プログラムが決め手になると発言されました。

会場から、病院が新人訪問看護師を育成するために協力できることについて質問があり、看護技術の習得や、病院勤務の看護師が訪問ステーションで研修するなど病院との連携について意見交換がなされました。(広報委員 山内孝枝)

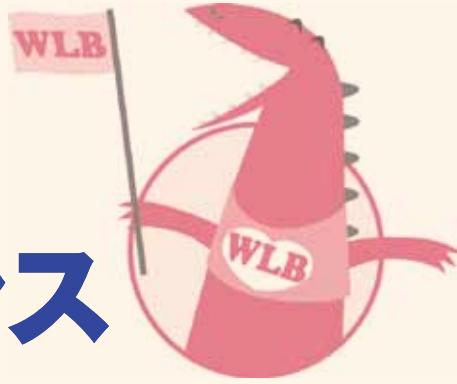
学会参加者の主な声

- 新卒看護師の訪問看護就職の話や、訪問看護の動向など、大変刺激を受けた
- 出生前からの訪問看護など、先駆的な取り組みや考えに触ることができ、刺激的だった
- 訪問看護は「退院後2週間が勝負」、という話が印象的だった
- 参加者が多く活気があり、大盛況だと感じた
- 係の方がされていたスカーフが印象的だった
- スタッフの方々の感じが良かった
- 配布されているバックが花柄でかわいかった



看護職のWLB推進ワークショップ事業

楽しく 拡がる ワーク・ライフ・バランス



看護職のWLB推進ワークショップ事業も、開始から4年目を迎えています。これまでに23の施設が参加し、現場の実態調査・職員の生の声によりそれぞれの課題を明確にして、職場環境の改善に取り組んでおります。

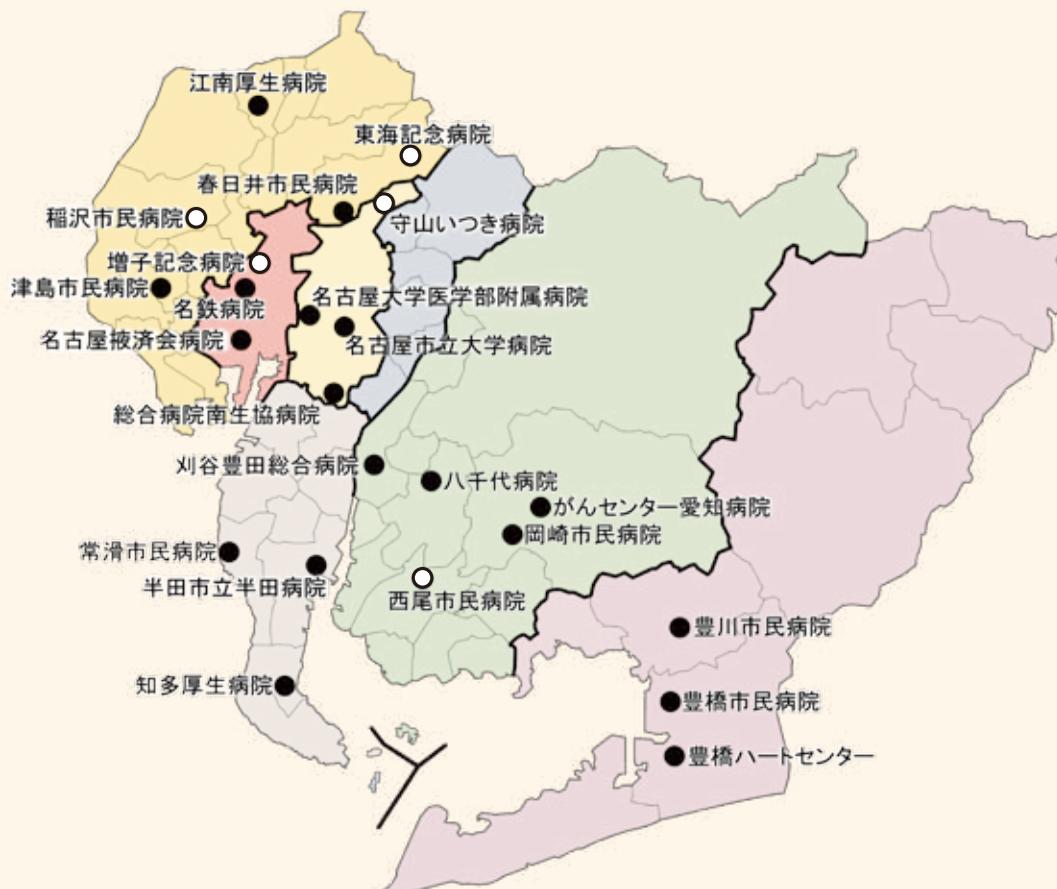
今回は、本格的に取り組みを開始して4ヶ月が経過した平成27年度新参加の5施設の現状をうかがいました。

平成26年までの参加施設（●印）

年度	施設名
H24	春日井市民病院
	刈谷豊田総合病院
	総合病院南生協病院
	半田市立半田病院
H25	がんセンター愛知病院
	常滑市民病院
	豊橋市民病院
	豊橋ハートセンター
	名古屋掖済会病院
	名古屋市立大学病院
	名古屋大学医学部附属病院
	名鉄病院
	八千代病院
H26	岡崎市民病院
	江南厚生病院
	知多厚生病院
	津島市民病院
	豊川市民病院

平成27年新参加施設（○印）

稲沢市民病院
東海記念病院
西尾市民病院
増子記念病院
守山いつき病院



① このワークショップに参加しようとしたきっかけ・動機

② 取り組み中の担当者からのメッセージ。
「こんなことを楽しくやってます！」

平成27年度参加の5施設

看護部の活動が他職種にも注目されています

稲沢市民病院

515作戦 開始!

地域住民に親しまれ、信頼される病院

許可病床数	320床
病床稼働率	78.4%
看護体制	7対1
平均在院日数	12日
看護部長	石田 久恵

① 新病院に移転し、今までがんばってきた職員と新しく入職した職員が、お互いの立場を尊重しながら、共に助け合い支えあう職場づくりを目指すことが良い仕事に繋がると考えWLBワークショップ事業に応募しました。

② ワーキンググループを2つ立ち上げました。『515作戦』は5時15分業務終了を目指しています。『いなっぴザウルス』は当院の制度認知を高める冊子作りに取り掛かりました。勿論、時間内に楽しく活動中です。

東海記念病院

● 予防医学・前方支援・後方支援・
在宅支援を担う地域におけるハブ病院

許可病床数	199床
病床稼働率	76.1%
看護体制	10対1
平均在院日数	19.4日
看護部長	目野 千束

看護の質向上を目指して、じっくりと現状を分析

1 当院の課題は、夜勤可能な看護師の確保、有休取得率や残業時間などに対する不満の解消、退職率14%を全国平均に近づけることなどです。自院の力だけでは推進に限界があると感じWLB事業の力を借りようと考えました。

2 まだ華々しい対策は何も立てていません。今は毎月2回の師長会で、95%と高かったアンケート結果を確認し現状分析段階です。3年間じっくり取り組み、働きつけられる職場つくりをし、看護の質を上げていきます。

西尾市民病院

● 地域住民が安心できる
医療を提供する公立病院

許可病床数	400床
病床稼働率	63.6%
看護体制	7対1
平均在院日数	15.3日
看護部長	鈴木 育子

職員を疲弊から救うために…

1 ここ数年、正規の看護師採用が目標数を下回っていました。その影響で人員不足が進み、夜勤回数が増え年休が取りづらいなど職員の疲弊が深刻になってきました。この状況を何とか打開するために参加を決めました。

2 調査結果から、制度など職員への周知不足が課題としてあげられました。全職員対象にWLBキックオフミーティングを開き、インデックス調査の結果やこれから計画を説明しました。できることから取り組んでいきます。

増子記念病院

● 腎臓病・肝臓病に対して
あらゆる治療が提供できる病院

許可病床数	102床
病床稼働率	75.3%
看護体制	7対1
平均在院日数	16.8日
看護部長	上村志磨子

他職種と共に、楽しく前進します

1 当院で働く看護職のWLBに関する実態を知りたいと考えたことがきっかけで、昨年インデックス調査のみ参加しました。結果から管理者と職員の思いに乖離があることが分かりワークショップに参加することを決めました。

2 副院長とME1名PT1名が委員となり、他職種を巻き込んでの取り組みを始めました。制度案内のパンフやWLB通信に「カンゴサウルス」のイラストを使い、まずメンバーが「明るく楽しみながら」をモットーに取り組んでいます。

守山いつき病院

● 温かなサービスを通じて
社会に貢献する病院

許可病床数	101床
病床稼働率	83%
看護体制	13対1
平均在院日数	17.4日
看護部長	小畠友貴哉

まずは、ホームページの作成

1 開院時から看護職員のまとまりもなく、不安・不満の声があり、これでは看護の質は保てないと考えました。法人理念でもある「心からEnjoy My Life」を成し遂げるため、看護職員が生き生きとして、「明るく、楽しく、笑顔が絶えない」そんな部署を目指し今回の事業に参加しました。

2 看護部のホームページを作成しています。作成するにあたり、各部署のスタッフが協力し完成に近づいています。何度も修正し大変な点もありますが、完成の楽しみもあり、やりがいを感じ取り組んでいます。

平成28年度からの WLB推進事業

1年間で取り組める課題を設定し、その成果を積み上げることでその施設のWLBの推進はかかる企画を検討しています。コンセプトは楽しみながら、病院長・事務部長をまきこんだ推進体制で、看護スタッフの笑顔を思い描いて取り組むことと考えています。

護ります。
支えます。
歩みます。
あなたといつも
一緒に。

ナースセンター ニュース 2016 WINTER

『再度』みなさまにお願いです!

● 看護師等の離職時等の届出制度



インターネット届出支援サイト
とどけるんで届出をお願いします

登録は

- ① ID申請
- ② 本登録

の2ステップ

QRコードから
簡単アクセス▶



とどけるん

検索



の安心でサポート

まず、
届出を済ませて
安心

いつも、
つながっていて
安心

あなたの情報
セキュリティも
安心

登録すると、ナースセンターから復職に向けた情報提供やさまざまな支援を受けられます。

現在、「ライフ&リフレッシュ」「ヘルス&ビューティ」「子育て・介護」の3つのお得な情報満載のコンテンツをネット配信しております。
とどけるんにログインし、一度ご確認してみてはいかがでしょうか？

※この届出制度は、法律に基づいた看護師等の復職を支援する制度です。届け出た情報が、
ハローワークや民間の職業紹介事業所に提供されることはありません。
また、これらの登録は全て無料です。

事業拡大から9か月

名駅支所利用が好調です！

愛知県ナースセンター
名駅支所



名駅支所

地域の医療機関に積極的にアプローチ！

愛知県ナースセンター
豊橋支所

相談員2人体制で「地域に根差した職業紹介・斡旋を！」という思いで、東三河ならではの情報の発信に努めています。

施設訪問させていただいている！

6月から施設訪問を開始しました。12月末日現在45施設におじゃまさせていただいております。求人内容はもちろん、施設の特徴やおすすめ情報など普段なかなか聞けないお話をありとても充実した時間を共有させていただいています。今後も順次訪問させていただく予定です。よろしくお願いします。是非に、という施設様お声をかけてください。お待ちしています。



事務長からの声

「有料職業紹介所を利用せざるを得ない状況もあり困っている。何とかナースセンターでお世話をほしい」

看護部長からの声

「わざわざナースセンターから来てもらいうれしい！是非施設みてほしい！」

ハローワーク巡回もご利用ください！

ナースセンターが県内7ヶ所のハローワークで相談をお受けしています。



場所	曜日	時間
名古屋中(あいちマザーズ) ハローワーク	第2、4火曜日	9:00~17:00
豊橋ハローワーク	第4木曜日	9:00~16:00
岡崎ハローワーク	第3金曜日	9:00~12:00
一宮ハローワーク	第1火曜日	9:00~16:00
半田ハローワーク	第2水曜日	9:00~16:00
豊田ハローワーク	第4水曜日	9:00~12:00
春日井ハローワーク	第3火曜日	9:00~16:00

より身近に感じていただけるナースセンターを目指して
ホームページをリニューアルしました

これまでより見やすく、
情報が検索しやすい
レイアウトに、
カラーも一新！

- タイムリーに情報を更新していきます。
- ナースセンターをご利用いただいた方へのインター
記事など、親しみやすい内容を掲載していきます

みなさまに親しまれるホームページにしていきたいと
思います。ホームページに関するご意見、その他ご要望
等をぜひお寄せください。お待ちしております。



ナースセンターでの、日々の
ちょっとした話題をブログで
掲載しています。
ぜひ、一度アクセスを！

web版
ナースセンターだより

愛知県ナースセンターURL
<http://aichi-nurse.com>
QRコードから
簡単アクセス▶

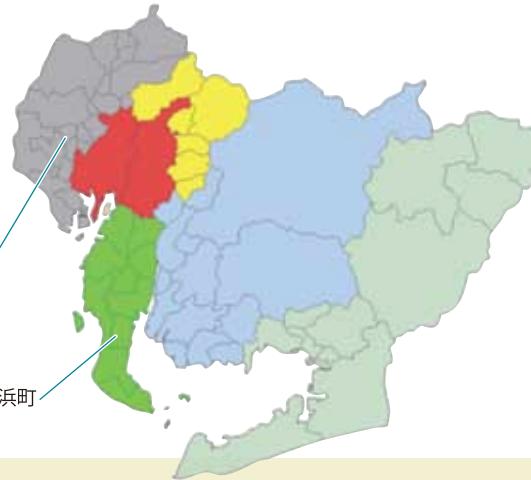


シリーズ 地区支部活動

(第5回) 尾張地区支部・知多地区支部

尾張地区支部 一宮市、春日井市、津島市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、西春日井郡：豊山村 丹羽郡：大口町、扶桑町
海部郡：大治町、蟹江町、飛島村

知多地区支部 半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、知多郡：阿久比町、武豊町、東浦町、南知多町、美浜町



尾張地区支部

尾張地区支部

支 部 長	林 順子	小牧市民病院	幹 事	吉川かほり	春日井市民病院
副支部長	中村栄美子	愛知県清須保健所		山口さとみ	医療法人医仁会 さくら総合病院
				村上 由美	社会医療法人大雄会 総合大雄会病院

広報委員取材レポート

健康チェック「1日まちの保健室」

日時 平成27年10月17日(土)・18日(日)

場所 小牧市民会館

平成27年10月17日及び18日に小牧市民まつりが開催されました。小牧市民まつりは「市民でつくるまちづくり」を推進するため、市民団体が中心となって運営しています。今年は「ふれあいの輪をひろげよう」をテーマに開催されました。

両日とも汗ばむほどの晴天に恵まれ、会場にはたくさんのステージやイベント、ブース、体験アトラクションが設置され、幅広い世代の方が来場していました。

この活気あふれる祭り会場の入り口すぐ近くに、尾張地区支部のブースは設けられており、看護師らが中心となって、来場者の体脂肪、血管年齢、脳年齢、骨密度の測定を行っていました。老若男女多くの方がブースに列を作り、測定後には結果を家族や友人と見せ合ったり、看護師にアドバイスをもらったりできて満足そうでした。来場者の楽しくかつ真剣な表情が印象的で、看護の力を通してひろがるふれあいの輪を感じました。

(広報委員 中根典子)



知多地区支部

知多地区支部

支 部 長	白井 麻希	半田市立半田病院	幹 事	水野貴美子	愛知県半田保健所
副支部長	鈴木 友子	あいち小児保健医療総合センター		荒井 和美	愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院
				倉内 敏江	半田常滑看護専門学校

活動レポート

健康チェック「1日まちの保健室」

日時 平成27年11月21日(土)

場所 雁宿ホール

半田市セカンドライフフェスタに知多地区支部として参加しました。看護師によるよろず相談と血糖チェック等を実施し、約180名の市民の方に参加いただきました。また、保健センターや市年金課のブースが隣にあり、現況の情報交換や各々の活動連携を模索した貴重な時間となりました。

(知多地区支部長 白井麻希)



看護研究における 倫理審査に関するニーズ調査結果

愛知県看護協会研究倫理委員会

愛知県看護協会研究倫理委員会は看護研究の推進および研究倫理に関する啓蒙を目標に、研究倫理審査と相談対応を担っています。今後の活動への示唆を得るために会員施設を対象とした調査を平成27年1月に行いました。調査にご協力いただきました皆様に謝意を申し上げますと共に、概要をここに報告いたします。

I.回答施設の概要

愛知県看護協会に会員登録している施設のうち、大学等を除く施設を対象として279施設から回答を得た（回収率57.1%）。回答施設の内訳は、病院145施設、診療所41施設、訪問看護ステーション39施設であった。

研究倫理委員会を設置している施設は113施設(40.5%)であり、そのうち委員に看護師が含まれている施設は111施設(98.2%)であった。審査段階では、95施設が適切な審査段階である「データ収集前」に倫理審査を行っていた。しかし、19施設が「計画書作成前」、16施設が「発表が決定した時」、7施設が「データ収集後」と回答した。（図1）

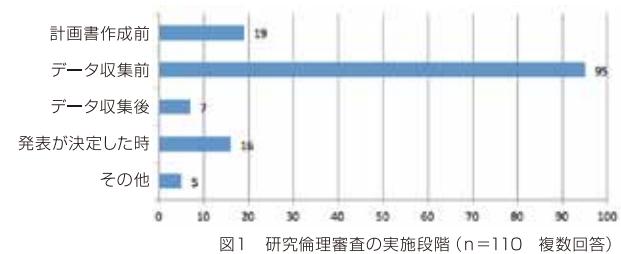


図1 研究倫理審査の実施段階 (n=110 複数回答)

II.看護研究における倫理審査の現状

研究倫理委員会を設置していない理由として「看護研究を行っていない」と回答した施設が85施設と最も多かった。この他、「研究倫理委員会ではないが審査を実施している」との回答もあった。倫理審査委員会による審査が必要であることはわかっていても専任者がいないことや、規模が小さく委員会の設置が難しいとの回答もあった。事例研究や施設内の研究発表であり審査不要の研究だからなど、研究倫理を誤解した回答も複数あった。

倫理審査上の困難が「ある」と答えた施設が141施設であり、そのうち99施設がその内容を回答し、「倫理審査を必要とする基準について」が最も多く70施設、次いで「倫理審査に至るまでの研究のサポートについて」が66施設、「施設内に倫理審査を行う委員会等がない」が60施設、「倫理審査を行う上での基準について」が53施設であった。その他に、看護師以外の委員に看護研究を理解してもらう困難も回答された。（図2）

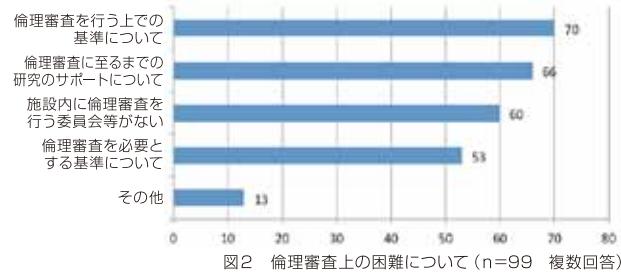


図2 倫理審査上の困難について (n=99 複数回答)

III.委員会へのニーズ

当委員会への要望を複数回答で求めた結果、最も多かったのは、「研究倫理に関する研修の企画」で129施設であり、「看護研究の倫理審査を行う委員会等の設置に関するサポート」が58施設、「研究倫理審査」が44施設であった。その他、「倫理審査基準の作成や手順について」、「小規模施設のサポート」や「出張研修会」などの多くの回答があった。（図3）

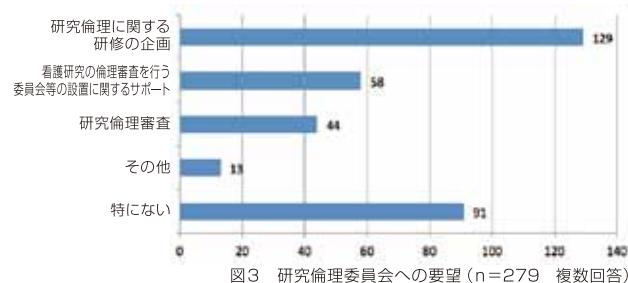


図3 研究倫理委員会への要望 (n=279 複数回答)

研究倫理審査を行う体制整備が進んでいる一方、研究倫理審査に関する基本的な考え方や審査方法について支援を要する現状が確認できました。今回の調査結果に基づき、今後の委員会活動を展開したいと考えており、まずは平成28年度に研究倫理に関する研修会を企画しました。皆様のご参加をお待ちしております。

医療の安全確保に向けて

医療事故調査制度がはじまりました

この制度は、医療法に基づいた医療事故に関わる新しい制度です。

医療事故が発生した医療機関では、原因を明らかにするために院内調査を行います。

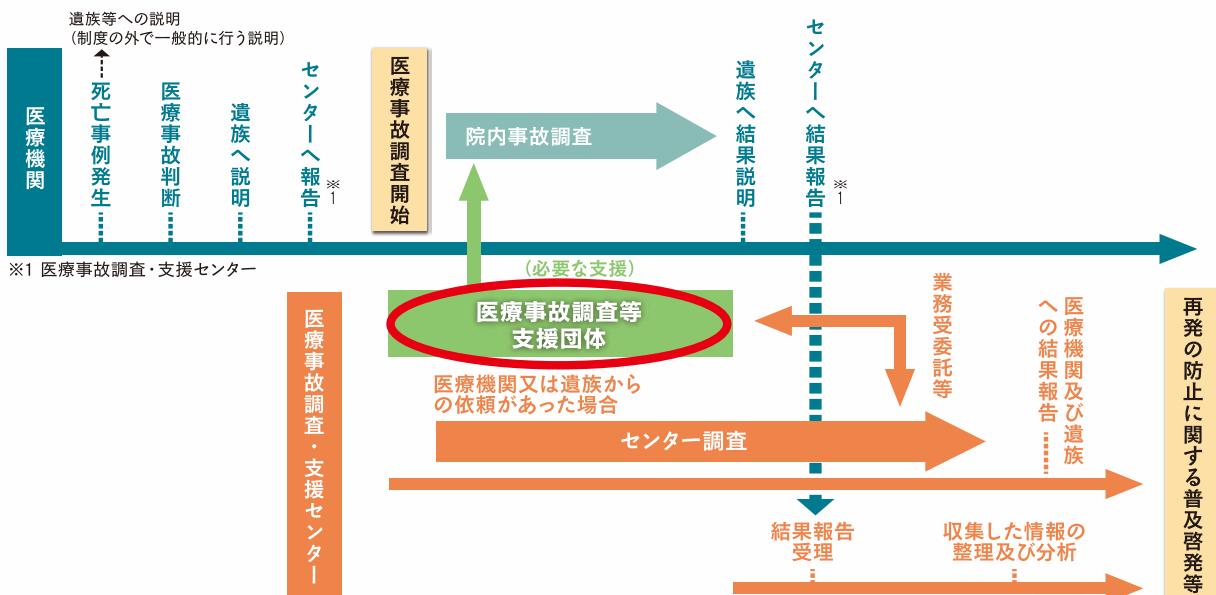
第三者機関である「医療事故調査・支援センター」がこの調査結果を受け、収集・分析すること等により、医療事故の再発防止につなげます。

愛知県看護協会は、看護の職能団体として平成27年10月1日から
医療事故調査制度における医療事故調査等支援団体を担うことになりました。

医療事故調査等支援団体とは

医療機関が院内調査を行うにあたり、必要な支援を行う団体で、公益社団法人日本看護協会、都道府県看護協会、都道府県医師会、大学病院、各領域の医学会など、複数の医療関係団体で構成されています。

〈医療事故調査の仕組みと流れ〉



出典：厚生労働省HP「医療事故調査制度について 1 制度の概要 概要図」、アクセス年月日 2015/8/24
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html>)を一部改変

詳細についてはホームページをご覧ください

医療事故調査制度に関する法律・通知等について

医療事故調査制度 厚生労働省

検索

URL : <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html>

医療事故報告等の手続きについて

日本医療安全調査機構

検索

URL : <https://www.medsafe.or.jp>

●医療の安全確保に向けて、さらなる取り組みを推進しましょう

日本看護協会は、医療事故調査制度の開始にあたって、冊子「医療に起因する予期せぬ死亡又は死産が発生した際の対応」を公表しています。医療安全管理体制の施行を契機に、組織での取り組みを推進しましょう。日本看護協会のホームページよりダウンロードできますので、是非ご参照ください。



選挙公報

平成28年度 愛知県看護協会役員等の選挙について

平成28年度の愛知県看護協会通常総会において、役員22名（理事21名、監事1名）、職能委員20名ならびに推薦委員9名の選挙を行います。（定款細則14条、15条）

定款細則17条により、立候補の受付を行います。立候補をされる正会員は、所定の手続きにしたがって届け出を行ってください。（ホームページに様式を掲載しております。）

【改選の役員】会長1名、副会長2名、専務理事1名、常務理事3名、地区理事7名、保健師職能理事1名、助産師職能理事1名、看護師職能I理事（病院領域）1名、看護師職能II理事（在宅領域）1名、准看護師理事1名、理事2名、監事（業務に精通した看護職）1名

【改選の職能委員】保健師職能委員会委員5名、助産師職能委員会委員5名、看護師職能委員会I（病院領域）委員5名（うち1名は准看護師）、看護師職能委員会II（在宅領域）委員5名

平成29年度 日本看護協会代議員及び予備代議員の選挙について

平成28年度の愛知県看護協会通常総会において、平成29年度 日本看護協会代議員及び予備代議員の選挙を行います。（定款細則13条）

定款細則17条により、立候補の受付を行います。立候補をされる正会員は、所定の手続きにしたがって届け出を行ってください。（ホームページに様式を掲載しております。）

なお、代議員及び予備代議員の数は、会員数によって割り振られます。各々38名です。

立候補の締め切りは、平成28年4月22日（金）必着とさせていただきます。（選挙管理委員長 鬼頭まり子）

協会のこの3ヶ月

Monthly News

マンスリーニュース

※会場の記載のないものは、愛知県看護協会で実施

10月	1日(木)	摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程 開講
	2日(金)	日本看護学会-在宅看護-学術集会（～3日(土)） 名古屋国際会議場
	17日(土)	子育て応援団「すこやかフェスタ2015」に、主催の中京テレビ放送と共に開催され、ブース出展（～18日(日)） 日本ガイシホール
	19日(月)	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 開講
	23日(金)	WLB平成27年度参加施設進捗報告会
	30日(金)	平成27年度前期監査
11月	10日(火)	災害支援ナース派遣調整合同訓練（～12日(木)）
	14日(土)	西三河地区支部交流会「介護施設における看取りの在り方」 愛知県がんセンター愛知病院
	15日(日)	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程・訪問看護認定看護師教育課程平成28年度入学試験
	17日(火)	愛知県看護連盟との情報交換会
	18日(水)	防災・防火避難訓練（愛知県高辻センターと合同）
	24日(火)	愛知県病院協会との意見交換会 愛知県医師会館
12月	4日(金)	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 閉講
	9日(水)	愛知県看護研究会 愛知県産業労働センター（ワインクあいち）
	16日(水)	愛知県医師会との懇談会 愛知県医師会館
		愛知県看護研究会（研究発表 口演）



理事会報告

第4回 理事会

平成27年10月26日(月)

協議事項

- ① 看護師職能委員会I・IIの設置について
質疑応答の後、原案通り、承認。
- ② 地区支部規約の改正について
原案通り承認。
- ③ 平成28年度愛知県看護協会重点事業(案)について
質疑応答の後、再度次回の理事会で継続審議となる。

第5回 理事会

平成27年12月14日(月)

協議事項

- ① 平成28年度愛知県看護協会重点事業(案)について
質疑応答の後、一部文言修正し、承認。
- ② 看護師職能I、IIの設置に伴う定款施行細則の改正について
質疑応答の後、承認。
適用は「平成28年度の役員、職能委員の選出から」とする。
- ③ 平成28年度 委員会・地区支部事業計画(素案)について
質疑応答の後、原案通り承認。

平成28年度重点事業

● 地域包括ケアシステムの構築の推進

- ・在宅看護に関わる人材育成
- ・地域包括ケアに関わる関係機関との連携

● 地区支部活動の強化

- ・地区支部の地域包括ケアシステム推進のための交流会等の開催
- ・地域災害看護活動の推進

● 看護職の確保・定着と働きやすい労働環境づくり

- ・ナースセンターの就業促進の推進
- ・医療勤務環境改善支援センターとの連携

● 会員拡大に向けた取組みの強化

- ・新会員情報管理システムの周知及び円滑な移行

平成27年度 秋の叙勲・表彰 受賞おめでとうございます。

● 瑞宝双光章 鈴木 正子 様 (元刈谷豊田総合病院 看護部長)

● 瑞宝单光章 服部 レイ子 様 (元愛知県城山病院 看護部長)

平成27年11月3日中日新聞掲載

● 愛知県条例
表彰による表彰
(保健医療功労)
丸山 路代 様 (元社)愛知県看護協会 副会長)

山本 富美子 様 (元社)愛知県助産師会 副会長)

平成27年11月19日中日新聞掲載

愛知県ナースセンター 職員募集

募集人員 看護職1名

勤務場所 愛知県ナースセンター

勤務期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
(以後更新あり)

応募要件 定年退職者で再就業希望者歓迎

*詳細は、担当者までお問い合わせください。

応募期間 平成28年2月8日～2月26日

担当 江上 TEL 052-871-0600

計報

慎んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

看護師 小倉 匠裕 氏 (21歳) 中京病院(平成27年9月19日永眠)

看護師 大槻 かおり 氏 (51歳) 藤田保健衛生大学病院(平成27年10月24日永眠)

看護師 横山 かほり 氏 (49歳) 愛知県厚生農業協同組合連合会 渥美病院(平成27年10月28日永眠)

表紙の写真について

今回から7地区支部に協力してもらい、その地区の自慢を掲載いたします。建物、公園、お祭り、人…等何が紹介されるかお楽しみに。第1回は知多地区支部です。

半田赤レンガ建物(旧カブトビル工場)は、明治31年愛知県半田市に建造されました。レンガ造りの建物として国内屈指の規模があり、その魅力を伝えるため整備工事を行い、平成27年7月に常時公開の観光施設として新たにオープンしました。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年は暖かく穏やかな年明けとなりました。

今年の干支の「さる」にちなんで、「見ざる・聞かざる・言わざる」ではなく「見る・聞く・言う」をモットーに、会員の皆さんへ愛知県看護協会の動きをわかりやすくお伝えしていかたらと思います。本年もよろしくお願いします。

●会員数 35,497人(平成27年12月31日現在) (保健師 596人／助産師 1,384人／看護師 32,391人／准看護師 1,126人)

発行:公益社団法人愛知県看護協会 名古屋市昭和区円上町26番18号 TEL:052-871-0711 FAX: 052-871-0757 E-mail: aikan@aioros.ocn.ne.jp 発行責任者: 鈴木 正子 発行日/平成28年1月31日